CWA NEWS

CWAのホームページをリニューアルしました

― 見て楽しいホームページを目指して ―

大事な情報をもれなくお知らせします

皆様の知りたい情報を提供してまいります

皆様からの情報やご意見をお寄せください

画像内でマウスを動かすと操作ボタンが表示され、停止やコマ送りなどが行えます

画面をスクロールするとウィスコンシン州の場所を見ることができます

リニューアル後のトップページ

10月31日からホームページのアドレスが変わりました。

新しいアドレス　http://www.chiba-wisconsin.net/

〈主な変更内容〉

- 「CWAよりお知らせ」の項目を設け、大事な情報をもれなく伝わるようにします。
- トップページの写真にＦＬＡＳＨを使用し、写真12枚をスライド形式で表示します。
- 「ウィスコンシン州早わかり」の項目を新設し、ウィスコンシン州に関する歴史・地理・自然・産業などの基本情報を掲載するほか、ウィスコンシン州の魅力を観光スポット、スポーツ、食べ物などテーマ別に順次紹介していきたいと考えています。
- 「ウィスコンシン州早わかり」については皆様とともに創り上げることを目指しておりますので、「CWA 掲示板」などを通じ、会員の皆様からも情報やご意見をお寄せください。

ケビン・クロフォードウィスコンシン・千葉委員会委員長からのメッセージ

Kevin Crawford, President
Wisconsin-Chiba Inc.

Dear Chiba Friends:
拝啓

As you read this, I hope this finds you in good health and good spirits.

Permit me to reintroduce myself. My name is Kevin Crawford and after serving for 20 years as the Mayor of Kamogawa City's sister-city, Manitowoc, Wisconsin, USA, I currently serve as the Senior Vice President of Government Affairs for Orion Energy Systems. It has been an exciting year at Orion with visits by very special guests including the Chiba Biomass Delegation (September), Japanese Ambassador to the United States Ichiro Fujisaki (November) and US President Barack Obama (January).

It is a privilege to continue supporting the friendship between the State of Wisconsin and Chiba Prefecture as President of Wisconsin-Chiba Inc. I am delighted as well that my Executive Assistant from the Mayor's Office, Tina Prigge, has joined me as Executive Assistant at Orion. Having lived in Oita-ken for three (3) years as a participant of the JET Program, she is extremely dedicated to supporting our sister-state friendship.

As the newly elected President of Wisconsin-Chiba Inc., one of our first efforts was to coordinate a Japan Relief fund-raising effort with the First Lady of the State of Wisconsin, Tonette Walker. Based upon these positive interactions with the administration of the State of Wisconsin, most recently Governor Walker appointed me to serve as the Private Sector Director from the State of Wisconsin to the Midwest US-Japan Association. This appointment will be confirmed by the Board of Directors of the Midwest US-Japan Association at its meeting in Tokyo this September. I very much look forward to returning to Japan for this event.

Orion Energy Systems is a leading power technology enterprise that designs and manufactures custom, application-specific engineered solutions that, since 2001, have displaced more than 658 megawatts, saving customers $1.3 billion and reducing indirect carbon dioxide emissions by nearly 11 million tons. As part of the Japan-Midwest US Association Conference, I will serve on an Executive Panel representing Orion Energy Systems regarding the topic "Innovation in Energy and the Environment". If you happen to be attending the conference, please seek me out. I would welcome the opportunity to see you.

Best wishes and long live a warm sister-state friendship.

敬具

拝啓

親愛なる千葉県の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

まず改めて自己紹介をさせて頂きます。私は、ケビン・クロフォードと申します。千葉県鴨川市の姉妹都市であるウィスコンシン州マニトワック市の市長を２０年間務めた後、現在は、Orion Energy Systems社の副社長として、州政府との調整を担当しております。昨年は、9月に、千葉県からバイオマスグループを、11月には、駐米大使の藤崎一郎氏を、そして、本年1月には、オバマ大統領を、それぞれお迎えし、当社にとっては大変エキサイティングな年になりました。

さて、私は、ウィスコンシン・千葉委員会の委員長として、引き続きウィスコンシン州と千葉県との友好に貢献できることを大変光栄に思っております。また、ティナさん（Tina Prigge）が市長時代から引き続いて私の秘書をしてもらっていることを嬉しく思っております。彼女は、JETプログラムで3年間、大分県に住んでいたこともあり、姉妹交流の支援を献身的にやってもらっています。

ウィスコンシン・千葉委員会の委員長に選出されて最初に取り組んだのは、ウィスコンシン州知事夫人であるTonette Walkerさんと連携した、東日本大震災への支援でした。私がこの支援に積極的に取り組んだことに対して、Walker新州知事からは、日米中西部会におけるウィスコンシン州の民間部門の代表にご指名をいただきました。それは、9月に東京で開催される日米中西部会の会議の代表になることを意味しています。私は、この会議に出席することになって、日本を再び訪問できることを大変楽しみにしております。

さて、Orion Energy Systems社は、エネルギー技術分野では先導的な企業で、設計・注文生産、応用技術による解決を図ることにより、2001年からこれまでに、顧客のために13億ドルの経費を節約し、二酸化炭素の排出量として年間に約1,100万トンを削減しています。東京での会議において、私は会社を代表して、「エネルギーと環境における革新」というテーマで発表することになっています。この会議でお会いする機会に期待したいと思います。

姉妹交流による友情が末永く続くことを願っています。

敬具

<ウィスコンシン州出身のヘッドコーチ　エリック・ガードーさんに聞く>

2011年から千葉県初のプロバスケットボールチームとして、「bjリーグ」に新たに参戦することになった「千葉ジェッツ」。その采配を振るうことになったウィスコンシン州出身のヘッドコーチ、エリック・ガードーさんは2メートルを超える大男。公式戦を前にしての心境や千葉県とウィスコンシン州との交流への意気込みなどを語っていただきました。

エリック・ガードー（Eric Gardow）

- 1968年8月11日生まれ（43歳）
- 八千代市に在住
- ウィスコンシン州に生まれて育ち、大学時代にがんを発病し闘病生活を送ったが、３１歳で大学バスケットボール部に復帰し活躍。
- 主な指導歴
  - ーウィスコンシン大学スタウト校アソシエイトヘッドコーチ（2000-2005）
  - ーカタール代表チームヘッドコーチ（2007-2011）
  - ー千葉ジェッツヘッドコーチ（2011～）

――どちらの出身ですか、また、ウィスコンシン州はガードーさんにとってどんなところですか?

マディソンから２時間北に行ったオークレアの出身です。ウィスコンシン州は自分の故郷であり、友達も大勢いる特別な場所です。チーズやビールが有名で、パッカーズやブリュワーズといったプロスポーツチームが人気です。高校から大学までスポーツ文化が根付いており、自分もその中で育ちました。現在、コーチで海外にいることが多いのですが、小さな町に育ち、グローバルに活躍していることに不思議な気持ちになります。

――バスケットボールとの出会いは?

ウィスコンシン州はスポーツが盛んなところで、バスケットボールのゴールが庭やドライブウェイなど至る所にあって、いつでもバスケットボールに触れられました。また、YMCAや中学、高校、大学などでは、恵まれたスポーツ環境によりバスケットボールに打ち込むことができました。素晴らしいコーチがいてラッキーでしたが、今、人のためにコーチしていることを嬉しく思っています。

――がんを克服して大学バスケットボールに復帰されましたが、何がそれを支えたのですか?

大学3年生のときに癌を発病して４年間の治療とリハビリで疲れてしまい、諦めそうになりました。しかし、治療を受けているときに長男E.J.が生まれたことや、妻ブルックが目標を持って最後までやるように励ましてくれたことが大きなモチベーションになりました。

9月3日開催のプレシーズンゲームで（船橋アリーナ）

――　新チーム「千葉ジェッツ」を率いることになったきっかけは?

最初のきっかけはカタールの代表コーチを務めた時です。日本と対戦するため２００７年に来日し、日本人の努力する姿勢やバスケットボールへの情熱を感じました。その後、千葉ジェッツの関係者と話す機会があり、新チームでコーチをしたいと思うようになりました。子どもたちに夢を与えるというジェッツのビジョンにも共感し、また、千葉県とウィスコンシン州との関係にも関心をもちました。ゼロからやれるのでとてもチャレンジングです。

――チームの特徴と今シーズンの目標は?

ベテランや若手等いろいろな人材が揃ったチームです。

1年目のチームとして大事なのは、土台とチームワークを作りあげることです。もちろん、「ｂｊリーグ」の中でトップチームになれるように努力します。ファンに対しエキサイティングな試合も見せたいと思います。千葉県はミニバスケットボール人口が日本一なので、大勢の子どもたちに夢を与えたいです。そのため、小さなステップの積み重ねが大切です。他のチームとの比較ではなく、自分たちのチームの中でどうかを考え、成功や失敗の１つ１つから学ぶことが大切です。

――日本や千葉県の印象は?

今は日本の全てが好きです。現在、その文化を一から吸収しているところで、食べ物やスーパーマーケット、博物館など楽しんでいます。もっと日本語を勉強する時間ができたら、さらにいろいろ学べると思います。また、千葉県では、周囲の人たちにあたたかく迎え入れてもらっており感謝しています。

――CWA会員へメッセージをお願いします

千葉県とウィスコンシン州との交流で何かできることがあれば協力したいです。自分や家族がここにいることで、米国やウィスコンシン州にいる人たちに、日本、千葉県が安全であることや、ウィスコンシン州と千葉県が20年も交流を続けていることを伝えたいと思います。また、試合の中でも、ウィスコンシン州から人を呼ぶなど、何かコラボできたらいいと思います。

行ってみよう　ウィスコンシン州vol.3（味覚編）

味覚の秋にちなみ、今回はウィスコンシン州の味とこれに絡むスポットなどを紹介します。

1　乳 製 品

ウィスコンシン州といえば、乳牛の牧畜で有名で、人口550万人以上に対し牛は200万頭と言われ、人口1人当たりの牛乳の生産は全米一、州の家畜は乳牛、州の飲料は牛乳と、紛れもない酪農王国です。

酪農製品も多く、チーズは全米消費量の35パーセントを誇り、種類も豊富です。このうち、グリーン郡モンローは「米国のスイスチーズの都」として知られ、9月に「グリーンカウンティ・チーズデイズ」というチーズ製造に焦点をあてた催しが行われています。

また、トゥーリバースはアイスクリームサンデー発祥の地と言われています。1881年にパーラーを経営していたエド・バーナーズ氏がチョコレートシロップをアイスクリームにかけたのが始まりで、当時、条例でクリームソーダを販売することが禁じられていた日曜日に提供したことから、サンデーの名前がつけられたそうです（そのスペルは、その後sundaeになりました）。

そのほか、乳製品と関わりある味覚としてクリームパフ（シュークリーム）があります。毎年夏にウェストアリスで開催される「ステートフェア」の名物として知られていますが、過去10年間で360万個以上食されたそうです。「クリームパフを州のデザートにしよう！」という運動が、マクワナゴにある小学校4年生のクラスから起こり、本年6月、シンボルとして採用する議案が州議会で可決されました。

2　ビ ー ル

ミラー社（ミルウォーキー）

ウィスコンシン州をアピールするもう一つの特産品は、ドイツ系移民によって製造が始められたビールです。

とりわけ、ミルウォーキーは、「ビールキャピタル・オブ・ザ・ネーション」と言われる米国を代表するビールの産地です。ビール工場巡りはミルウォーキー観光の目玉で、市内にあるミラー社やパブスト社等の工場では無料の見学ツアーが実施され、その最後にはできたてのビールを味わえます。州内では、ほかにも様々なビール醸造所で見学や試飲に応じているほか、ビールパブも多数あります。各地を味較べしながら回れば楽しいでしょうね。

ドイツ系移民が多いウィスコンシン州では、秋にオクトーバーフェストという祭りが開催されます。なかでも、ラクロスで9月下旬に行われるオクトーバーフェストは米国中西部で最大規模を誇り、踊りやドイツ文化を満喫できますが、その主役はやはりビールのようです。

3　ソーセージなど

ドイツ風のソーセージであるブラッツ（ブラットワースト）もウィスコンシンを代表する味で、州内のドイツレストランなどで味わえるほか、州内の業者により市販されています。

また、肉料理としておなじみのハンバーガーですが、ウィスコンシン州シーモアには、「ホーム・オブ・ハンバーガー」という地区があります。1885年にチャーリー・ネイグリーン氏がシーモアで、パンにはさんだミートボールを「ハンバーガー」と名付けたことにちなんで名付けられました。1989年から毎年夏、「バーガーフェスト」という、ハンバーガーにちなんだ祭りが開催され、2001年には、5,520パウンド（約2,500キログラム）の世界最大のハンバーガーがふるまわれたそうです。

最後に、ソーセージやハンバーガーと相性がいいのはマスタードですが、ミドルトンには、全米でも珍しい「ナショナル・マスタード・ミュージアム」という無料施設があります。60ヵ国を超える5,300以上のマスタードが展示されています。その一部は試食もできるそうですが舌が大変なことになりそうですね。

3～5Pに出てきた地名の場所

※ なお、アイスクリームサンデーやハンバーガーの発祥地については、米国内で諸説あります。

特集 県内各地域に広がるウィスコンシン州との交流（2）

＜いすみ市とウォパン市の姉妹交流＞

いすみ市とウォパン市との姉妹都市提携は、１９９１年（平成３年）に夷隅町（現いすみ市）立国吉中学校とウォパン市立ウォパン中学校が姉妹校の提携が契機です。両校は、ペンパル活動や作品交換・ビデオ映像交換などを通して相互理解と親善を深め、１９９３年（平成５年）には国吉中学校からウォパン市に初めての海外派遣が行われ、一挙に姉妹都市提携の機運が高まっていきました。１９９５年（平成7年）８月２９日には、姉妹都市提携に関する同意書が交わされ、同年秋にウォパン中学校からの訪問団が初来日、文字通り相互交流となりました。また、いすみ市では、姉妹校提携以来、JETプログラムを通じて英語指導にあたるALTもウィスコンシン州から招へいしており、特に教育分野において、ウィスコンシン州と息の長い交流が続いています。

国吉中学校とウォパン中学校の交流

ウォパン市は、人口約１０，７００人の豊かな自然に囲まれた美しい町です。教育分野では、２００９年８月に中学と高校が１つになり、Waupun Junior Senior High Schoolと改称。小学校は、幼稚園児から小学２年生までの学校と小学３年から６年生までの学校があります。なお、ウォパン中学校では約６００人の生徒が学んでおり、ドイツ系とオランダ系の白人が多いため、異文化にあまり触れたことがない点は、いすみ市とも共通しているといえます。しかし、日本に対する関心は高く、ホストファミリーの温かいもてなしなど、姉妹校交流には最高の条件を満たしています。

ウォパンの自然の中で

両校の交流活動のもっとも大きな特徴は、派遣時期にあります。国吉中学校の海外研修団がウォパン中学校を訪問するのは、毎年、ウォパンの自然が最も美しい初秋に、一方、ウォパン中学校からの研修団の受け入れは、いすみ市の新緑が美しい５月から６月に隔年で行われています。いずれの季節も学校が休暇中でないため、生徒たちは、ホームステイ中心の交流だけでなく、歓迎集会や授業への直接参加など、訪問先の全校生徒と活発な交流が展開されるのです。

平成23年度の中学生海外研修、強まる絆　【国吉中学校教諭　鈴木誠二さんからの寄稿】

歓迎セレモニーでソーラン節を披露

今年の海外研修には、３年生の１６名が９月２７日から１０月５日まで派遣され、ウォパンでの６日間の滞在は、すべてホームステイでした。生徒たちは、ホームステイ先の生徒さんと同じ学級に入って授業を受けたり、市内を案内してもらうなどしてウォパンに関する理解を深めました。また、市内の２つの小学校も訪問し、よさこいソーラン節を踊ったり、折り紙作りを披露したりと大活躍。それぞれの家庭でも温かいもてなしを受け、ホストファミリーとの交流や絆を深めました。ウォパンを離れる１０月３日に、涙・涙の別れの光景を見たとき、生徒たちは言葉の壁を乗り越え、一段と逞しくなったのを感じました。

お別れ前日のポトラックパーティ

一方、今年度はウォパンからも受け入れる年でしたが，震災の影響（特に放射能）で中止に。しかし５月にはウォパン中高の校長から本校鶴岡徳夫校長宛に「ANGEL OF HOPE」という木彫りの天使の人形が，また各学級にはウォパン中高生手作りの「ドリームキャッチャー（先住民族のお守り）」が送られてきました。そして、生徒たちがウォパン訪問中も、市長さんや教育委員の皆さんからも被害の様子や復興の進み具合などについての質問があり、まるで我が事のように心配してくださっている様子がうかがえました。

「第４３回日本・米国中西部会　日米合同会議」が開催されました。

森田知事による来賓挨拶

去る９月２５日（日）から２７日（火）にかけて、「第４３回日本・米国中西部会日米合同会議」が、東京・明治記念館と帝国ホテルにおいて開催されました。

この会議は、日本と米国中西部諸州の経済関係者や自治体関係者が一同に会し、相互交流や理解促進を図ることを目的として、毎年、日米交互に開催されているものです。

今年は、「変化するグローバル経済におけるイノベーションの促進－日本・米国中西部：３．１１後の再建と成長をめざして－」というテーマのもと、日米から約４００名の参加者を集めて盛大に開催され、活発な意見交換が行われました。

日本からは、今回が２回目の参加となる森田健作知事ほか、埼玉、山梨、滋賀の各県知事、米国からは、アイオワ、イリノイ、ミシガン、ミネソタの各州の知事が参加されました。ウィスコンシン州からは知事の代理としてポール・ジャディン商務長官が参加され、森田健作知事とも面談を行いました。

ウィスコンシン州からの出席者の中には、ウィスコンシン・千葉委員会の委員長、ケビン・クロフォード氏の姿も見られました。同氏は現在、オリオン・エナジー・システムズ社の副社長として活躍中ですが、環境問題に関する造詣が深い同氏は、「エネルギーと環境分野におけるイノベーション」をテーマとしたパネル・ディスカッションにおいて司会者として活躍されていました。

会議は、最終日に共同声明を採択して、盛況のうちに閉会となりました。来年度は９月にミネソタ州ミネアポリスでの開催が予定されています。

大石道夫副会長とケビン・クロフォード委員長との面談が行われました。

左の列CWA、右の列ウィスコンシン・千葉委員会

去る9月25日（日）、日米中西部会の会議出席のため来日されたウィスコンシン・千葉委員会のケビン・クロフォード委員長と当協会の大石道夫副会長との面談が帝国ホテルで行われました。

昼食を挟んで、大石道夫副会長から、昨年秋のウィスコンシン州訪問に対するお礼を述べたあと情報交換を行い、その中で先方から千葉ジェッツやエリック・ガードーコーチの話題が出るなど和やかな雰囲気に包まれました。

また、来年のウィスコンシン州からの使節団については、ケビン・クロフォード委員長から、今後、検討を進めていくとのお話がありました。

＜ウィスコンシン・千葉委員会出席者＞

ケビン・クロフォード委員長、ミルトン・ネシュック氏（会計）及びナンシー・ネシュック同夫人、ベン・ヤップ氏（委員）

＜CWA出席者＞

大石道夫副会長、林和也アドバイザー、森山茂男運営委員長、青木靖子事務局長

来て！見て！楽しもう！「国際フェスタCHIBA」

前回のCWAブースの様子

国際フェスタCHIBAが、来る12月11日（日）10時から16時まで、千葉大学けやき会館（JR西千葉駅から徒歩8分、京成みどり台駅から徒歩6分）で開催されます。

前身はグローバルフェスタChibaですが、その目的は国際交流・国際協力の団体が、日頃の活動成果を発表するとともに、団体間の情報共有やネットワークづくりを行うこととしており、CWAは今年も参加・出展します。

今回は、運営委員等だけでなくボランティアの方々の協力をいただきながら、来場者の方がたに楽しんでいただける展示等を企画しています。

多くの方のご来場をお待ちしています。

【編集後記】

ミルウォーキーブリュワーズ（大リーグ野球）が29年ぶりに地区優勝しましたが、ワールドシリーズまであと2勝というところで敗れました。1月にスーパーボールに勝利したグリーンベイパッカーズに続く全米一を期待していただけに残念です。千葉ジェッツのガードーコーチのいうスポーツ文化が根付いているウィスコンシン州内ではそのショックの度合いはどれほどだったのでしょう。来年に期待しています。

発行所：千葉ウィスコンシン協会
発行人：森山茂男　　**編集**：広報部会
http://www.chiba-wisconsin.jp/
〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階
（財）ちば国際コンベンションビューロー内
＊電話でのお問い合わせ　☎043-223-2394（千葉県国際課）